

上級モデル譲りの「ディスクリットDAC」を搭載する、ネットワーク・プレーヤー

AB UD701 Special

メーカー希望小売価格 ¥455,000(税別)

ノーマルモデルからのバージョンアップ

¥170,000(税別)

コンプリートパッケージ

販売価格 ¥495,000(税別)



コンプリートパッケージは、AET TSD-HS/AC1.8mがセットになったお買い得パッケージです。

すべての接続で納得の高音質を実現

最近、「ネットワーク (LAN)」で音楽を聞くお客様が増えています。同じデジタルでもネットワークは、離れた場所の機器にも接続できるなど USB に比べて「使いやすさ」が魅力です。しかし、接続するサーバー「(PC や NAS)」や「ストリーミングサービス」に何を選ぶかで音質や使い勝手が大きく左右されますし、PC を使わずに音楽を聞きたいとお考えのお客様も少なくありません。そういう用途に向けて TEAC 社は、「TEAC HR Streamer」という、タブレットにインストールすれば「PC なしでも TEAC 製ネットワーク・プレーヤーとサーバーを組み合わせる音楽を聞けるアプリ」を無償配布していますが、「快適に使える」とは言えません。TEAC 社も「HR Streamer」の限界は理解していて、UD701 には「Roon」という有償アプリの 60 日間お試しライセンスが付属しています。

使い方ですが、Windows/Mac/Linux を搭載する PC に Roon の HP からダウンロードできる「Roon」をインストールします。次に Roon を立ち上げ「ログイン」することで使えるようになりますが、この時に付属するライセンスを入力すると、通常の「14 日」のお試し期間が 60 日に延長されます。また、Roon は Android/i-OS を搭載するタブレットからもフルコントロールすることが可能です。このように、やはり UD701 を完全に使いこなすには、「PC」は切り離せません。

しかし、最初に書いたように「PC」や「NAS」の音は、様々な理由によって変わります。UD701 Special は、Windows10/11 (CPU : Intel)、Mac Monterey (CPU : M1) /Catalina (CPU : Intel) の 4 種類の PC に「Roon」、「KODI」、「Asset UPnP」、「J River」の 4 種類のアプリを組み合わせる音質をチェックしています。そして、そのどの組み合わせでも確実に「AIRBOW が目指す音質」を実現することを確認しました。ネットワークの高音質化は、AIRBOW UD701 Special にお任せ下さい。

上級機譲りの「ディスクリットDAC」の能力を解き放つ

基板やパーツは異なりますが、UD701 には Grandioso の最上級モデルと「同じ動作のディスクリット DAC」が搭載されています。電源もトロイダルトランスが 4 個使われるなど、エントリーモデルながら、ディスクリット DAC の能力を十分に発揮できる構成が採用されています。つまり「チューナーの腕次第」では、Esoteric の中堅機程度には、十分匹敵しうる音質を発揮できる素性を持っています。約 80 個のパーツを入れ替え、追加することで AIRBOW UD701 Special はそれを実現することに成功しました。

高度なチューニング技術

全体で数百を超えるパーツの中の「たった一つ」を入れ替えるだけでも、音質ががらりと変わるハードのチューニングは「パーツの入れ替え」という簡便さから想像するのとは、比べものにならない繊細で難しい作業です。

単純に音を変えるだけなら、マニアにでもできますが、オーディオ機器を「楽器」のように精密にチューニングするのは、文字や数字の世界を超える高度なノウハウで、センスと熟練だけが勝負です。オーディオ機器のメーカー一名に「個人の名前」が使われるのは楽器に似ていますが、そういう「職人技」が反映される証です。

「AIRBOW の手法」は、いわば「完成した楽器の味わいをさらに深くする」作業ですから、チューナーはメーカーの技術者と同等以上の知識と経験に加え「正しく音楽を聞き分けられる能力」が必要とされます。世界中から互換性のあるパーツを買い集めて音質のテストを行い、コンサートを録音して耳と感性を研ぎ澄まし、必要に応じて複数の試聴室で総額一億円近くに及ぶスピーカーやアンプを使って音質のチェックを行います。それだけの手間とコストをかけているからこそ、メーカー製品の正しいチューニングが可能となるのです。

AIRBOWらしい「音質」とは？

オーディオ機器の宣伝には必ず使われる「音が良い」という言葉の定義は非常に曖昧です。CDよりも音が良いと言われて登場した、SACDやDVDオーディオが主流にならなかったのは、オーディオ機器の音質は「数字」では表せないからです。歪みの多いアナログが、復活していることも「メーカーが言う良い音＝原音に近い歪みの少ない音」の定義が間違っていた証です。

「良い音」とは、数字よりももっと直感的に、心に響くものであるはずですが、UD701 Specialがお客様に提供できるのは、ベースモデルを確実に回る「音の細やかさ（解像度の高さ）」と再生周波数帯域の広さ、そして圧倒的な「立体感（音場に体が包み込まれるようなイメージ）」ですが、なによりも同じ音楽を聞いたときの「雰囲気の高さ」や「心地よさ」が圧倒的に違います。

UD701 Specialでは、「光ディスクの再生」よりも聴き心地が劣りやすい「ネットワークで聞く音楽」を、アナログを知る「オーディオマニア」まで納得させられる水準に引き上げるために、音源の「粗」が出やすい高域を欲張らず、中低域の充実感にこだわりました。

音が出た瞬間に、これはTEACではなくGrandiosoではないのか？と錯覚するほど圧倒的な中低域の厚みに驚かれることでしょう。ネットワークオーディオ機器でありがちな、トゲトゲ感や平面的な感じとは一切無縁です。同じ音楽が遙かに「繊細」で「暖かく」、「スムーズ」に鳴り、一日中聞いているだけでも、聞き疲れとは無縁でいられます。音楽を「心に深く届ける力」も別物です。

今までなんとなく聞いていた「楽曲」に新しい魅力が見つかる、もっと聞きたくてスイッチを切れなくなってしまう。それこそAIRBOWが叶えたい夢であり、お客様に提供したい「音質」です。

圧倒的なコストパフォーマンス

オーディオ機器の音質を改善するために、電源やラインケーブル、インシュレーターなどのアクセサリを使うよりも、内部でパーツを交換・追加するAIRBOWのチューニングは遙かに効果的です。ベースモデルからの「バージョンアップ価格」は、17万円ですが、PCやNAS、あるいはアプリに同額を投じるよりも遙かに大きい「圧倒的なコストパフォーマンスを実現する音質改善を保証」できます。また、30日間の返品保証、試聴機貸し出しサービスの実施により、この言葉を「約束」させていただきます。

- 最大出力: 700mW+700mW (32Ω 負荷時)、500mW+500mW (32Ω ×1、負荷時)
- ヘッドホン出力: 4ピンXLR端子×1、6.3mmステレオ標準ジャック(金メッキ)×1

- アナログ入力: XLR端子 × 1系統、RCAピン端子 (金メッキ) × 1系統
- 消費電力: 40W
- 寸法/重量: 444 (W) × 111 (H) × 334 (D) mm/11.8kg